

川崎医療短期大学 広報誌 No.107

50th Anniversary
Kawasaki Gakuen
since 1970

特集 新型コロナウイルス対応

- 2019年度 年間キラリ賞表彰式／保健医療福祉概論
短歌受賞
- 協助会報告／補助金・助成金／国家試験合格状況
新任教職員紹介
- 川崎エコアクション／インフォメーション

さき
の
ち



特集

新型コロナウイルス対応

本年度は、年度開始当初から、新型コロナウイルス感染症の拡大により、授業や実習も大きな影響を受けました。今回の特集では、学長ならびに各学科が、本学の新型コロナウイルス感染症対策の方針と学科の教育についてご報告いたします。さらに、このような状況下でも医療福祉人を目指して勉学に励む学生の様子をご紹介します。

国際的協力なくして終息できない 新型コロナウイルス感染症

学長 椿原 彰夫



中国の武漢市で原因不明の肺炎発症が山陽新聞で報道されたのは、令和2年1月10日のことです。この時には、今のよう

に世界的な感染拡大に発展することを予測した人は皆無であったことと思います。1月16日に国内はじめての感染者が確認され、2月3日にはダイヤモンド・プリンセス号の乗客が隔離されることとなりました。この頃には、1) 感染力は新型インフルエンザ以上である、2) 発症していないウイルス保有者(感染者)からも感染する、3) 若年者は感冒と区別困難な軽症者が多いが、高齢者は重症化しやすく、死亡率が高い、4) 重症化は急激に進行し、人工呼吸器や体外式膜型人工肺を必要とする、などの情報が知られるようになりました。岡山県での感染者が出る以前でしたが、国内の感染者数が拡大しはじめた2月末に、川崎学園に新型コロナウイルス感染症対策本部が設置されました。

当初2週間ごとに開催された対策本部会議の基本的方針を受けて、川崎医療短期大学においても学生部の健康管理ワーキンググループを中心として具体的な行動ルールを定めました。その内容は、大学運営委員会において承認を得た後に、学生ならびに教職員に学内ポータルサイトを通じて通達することと

いたしました。2月末に決定された内容は、新入生に対するキャンパスカミングデイ(入学前学習)や中高生を対象とするオープンキャンパス、介護チャレンジセミナーの開催中止でした。さらに、卒業式と入学式を中止と決定いたしました。新年度オリエンテーションは3密(密接、密集、密閉)を避けて、マスク着用、手洗い、体温計測のもとで施行いたしました。この間に、ウイルス感染予防の教育も行い、特に、「学生自身が無症状ウイルス保有者である可能性を考えて、他者に移さない行動を徹底するように」と指導いたしました。このはな寮での感染予防の対策も徹底し、学生食堂での座席配置の変更と3密の回避に留意いたしました。岡山県での1日当たりの感染者数が2人以下でしたので、2週間の対面授業を行い、それ以降はWEBによる遠隔講義に移行しました。遠隔講義の内容にも、学生間の会食禁止や危険なアルバイト禁止を含む感染予防の話題を加えるよう、教員には通達いたしました。

7月末現在、本学の学生ならびに教職員に感染者は出ておりませんが、学園全体の協力体制と感染予防の教育効果は大きいと考えております。日本全体を見渡しますと、政府と都道府県知事、あるいは感染医学専門家と経済学者との連携は必ずしも良好ではなく、一貫した対策が不十分であると考えられます。国際的にも各国間、あるいはWHOとの協調性は劣悪であり、ウイルス感染が短期間で終息する可能性は低いと予想されます。今後も長く継続されることであろう感染症を考慮して、緊張感をもって学生指導に当たる必要があると認識しております。

看護科

新型コロナウイルス感染症対策



▲教室を分けて3密防止

新型コロナウイルス感染予防対策の一環として、3月中旬から学生は、毎日の健康状態をセルフチェックしています。臨地実習を再開している3年生は、院内・外での感染予防行動を遵守し、1日複数回の体温測定を実施するなど、特に注意を払って健康管理を行っています。「コロナ」と共存するなかで、学生は自らの健康意識を高め、生活を見直しています。

1・2年生は、前期講義科目のほとんどを遠隔授業にしていたのですが、6月からは、演習科目の学内授業が再開されました。一つの教室につき50%以下の座席しか使わないため、1学年140人程度の学生に対応できるよう教室の分散化や同

時放映で授業を行っています。また、技術系の学内実習では、少しでも学生間の距離がとれるように学生数を減らし、通常3グループで行う実習を4～5グループに分けて実施しています。患者・看護師役になって実習する技術項目では、お互いの距離が近づくため、フェイスシールドを使用しています。また、天井からのつり下げ式シールドを作成し、2人以上のグループ学習でも直接対面にならないように工夫して実習をしています。本学科では学生、教員が協力して感染拡大防止第一の行動に努め、多くの制限があるなかでも充実した学びができるよう創意工夫し学習を継続しています。



▲つり下げ式シールドを設置しての採血実習



▲人体の構造・機能の遠隔授業

医療介護福祉科

新型コロナウイルス感染症対策



新型コロナウイルス感染症の拡大のために、新年度が始まってわずか2週間で出校停止となりました。新たな学生生活への希望に満ちておられた新1年生の皆さんにとって、大変残念なことだったと思います。医療介護福祉科でも、1・2年生の学外実習を中止し、学内実習に変更しました。ここでは、感染症予防を取り入れた授業や実習をご紹介します。

医療介護福祉科には、生活支援（衣生活・住居）の授業があります。この授業では、在宅で生活する利用者さんの生活を支えるために、何でも市販のものを購入するのではなく、自宅にあるものを使い、手作りで福祉用具を作ることを学びます。新型コロナウイルス感染症の流行によりマスクの入手が困難になるなか、生活を支える介護福祉士としてできることを考え、1年生、2年生共にマスクを作りました。登下校時には手作りマスクを着用し、繰り返し洗って使っています。

2年生の実習では、感染経路に応じた嘔吐物おうとぶつの処理方法を実習に取り入れました。さらに、感染予防の基本を踏まえ、ハウスキー



▲ミシンを使つてのマスク製作

パーさんの指導のもと、生活援助を想定した実習を行いました。トイレ掃除では、トイレのドアノブや便器の消毒方法について学ぶとともに、学生に対するハウスキーパーさんの思いやりを知ることができました。介護福祉士を目指す学生にとって、利用者さんがどうすれば生活しやすいかを考えることは大切ですが、今回の経験から、相手を思い行動することの意味を再確認しました。

新型コロナウイルスの流行により、学外実習に出ることはできませんが、これから出会う利用者さんのために、学生たちは知識と技術に磨きをかけています。



▲ハウスキーパーさん指導のもと、生活援助を想定したトイレ・洗面台掃除



新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら新年度をスタートさせましたが、緊急事態宣言発令に伴い4月18日以降は出校停止としました。原則として前期の授業は在宅による遠隔とし、実習は中止しました。6月からはより厳重な感染対策のもと、実習と対面授業を一部再開しました。突然変化する状況のなかでも、精一杯頑張っている学生たちの声です。

入学したら友達をたくさん作ろうと思っていましたが、感染予防のために人との距離をとる必要があり、友達を作ることが難しかったです。その後すぐに出校停止となり、専門的な内容の講義と慣れないオンデマンド授業に不安を抱えたまま大学生活が始まりました。一人で講義を受けるオンデマンド授業は、クラスメイトとの差が把握できず焦りを感じましたが、講義を見返すことができるという利点もありました。何度も見返すことで理解が深まり、6月から再開した学内実習もスムーズに取りかかることができました。また、標準予防策であるマスク着用や手洗い、手指消毒の習慣を身につけることもできました。新型コロナウイルス感染症は現在も収束していません。今後も気を緩めることなく、様々な工夫をして講義や実習をしてくださっている先生方に感謝し、クラスメイトに遅れをとらないように頑張っていきたいと思えます。

(看護科1年 星島 好実)

私は日々、マスクの着用やこまめな手洗い、検温などを行い、感染予防に努めています。遠隔授業が始まった当初は操作に不慣れでしたが、自宅を受講することで、自己管理能力を高めることができています。約1カ月半、一人で学習に取り組み、6月からは少しずつ登校が再開されました。先生や仲間との久しぶりの再会に、学内で学ぶ喜びを感じ、仲間と共に学ぶありがたさに改めて背筋の伸びる思いがしています。

新型コロナウイルス感染が再び広まりつつあるなか、今後に対する不安もありますが、安心して日常生活が送れるよう一日も早い収束を願ってやみません。これからも一人ひとりの冷静な行動がリスクを軽減させるということをお忘れず、今できることを一生懸命取り組んでいきたいと思えます。

(看護科2年 三橋 可奈子)

現在、臨地実習に参加しています。参加にあたり、1日3回の検温、手洗いとうがいの励行、マスクの着用を徹底しています。また、実習に参加できるのは多くの方々のおかげであるという感謝の気持ちを忘れずに日々励んでいます。

入院されている患者さんは、家族との面会ができず、精神的苦痛が大きい状況にあります。私は、そんな患者さんの心の拠り所となれるように、声かけや接し方に気を配っています。一方、新型コロナウイルス感染症の拡大が社会不安を増大させ、「コロナ差別」といわれる批判や誹謗中傷によって傷ついている人たちが多くおられます。私たちが何気なく発する言葉で人を救うこともあれば、時に言葉はナイフとなり人を深く傷つけてしまうこともあります。思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立った発言を意識する必要があると改めて思っています。

(看護科3年 秋葉 幸美)

入学して約4カ月が経ちました。新型コロナウイルスの影響で、4月の終わりから自宅で1人でオンデマンド授業を受けることになりました。先生や友達と顔を合わすことができなかつたため、6月からの実習や対面授業は不安でしかありませんでした。それでも施設実習は、理想の介護福祉士に近づくために大切な実習と考えて心待ちにしていたのですが、学内実習へと変更になりました。しかし、先生方が実習先の施設と変わらない実習内容を工夫してくださったおかげで、多くのものを得ることができました。

感染を防ぐために、日常生活でも学内でも、なるべく不特定多数の人の触れるものに触れないようにして、帰宅後には手洗い、うがいの徹底を心がけています。これからも、自宅での学習と学内での学習を通じて、自ら学ぶ姿勢を養い、将来の介護福祉士に向けて頑張っていきたいと思えます。

(医療介護福祉科1年 田川 茉唯)

私にとって、今年の学生生活と日常生活は忘れられないものとなりそうです。新型コロナウイルス感染の拡大により、4月中旬から出校停止になりました。オンデマンド授業中心の生活となり、最初は慣れないことによる不安もありました。5月は自宅実習が中心で、6月からは実際の在宅実習と類似した形で学内実習も始まりました。目の前にいない利用者さんを想像しながらの実習は難しい部分もありましたが、在宅でのマナーや特に気をつける点も学ぶことができました。

私は公共機関を使って通学しているため、手洗いとマスクの装着を心がけ、学内でもマスク着用とソーシャルディスタンスを保って授業に臨んでいます。今の時間を大切に、今できることを日々考え追求し、大学での授業や課題にしっかりと取り組んでいきたいと思えます。

(医療介護福祉科2年 川崎 美羽)

2019年度 年間キラリ賞表彰式

年間キラリ賞は、医療福祉人として大学生活を送るなかで、勉学のみならず学校行事への協力や社会活動への貢献にもキラリと頑張りを見せた学生を表彰するものです。新型コロナウイルスの影響により、2020年3月に予定されていた表彰式が7月16日（金）に開催されました（卒業生は表彰済です）。

表彰式では教職員の参列のもと、椿原 彰夫学長から表彰状と記念品が授与され、その功績を讃えるとともに、今後ますますの活躍を期待する激励の言葉をいただきました。

栄えある受賞者は次の通りです（2019年度の学年で表記しています）。

看護科

1年生：泉 結衣奈 高橋 佳香 本城 水優
2年生：佐藤 涼香 笠松 瑞希 三宅 百香

医療介護福祉科

1年生：植田 澄歌



(学生生活支援委員会)

保健医療福祉概論 2020年度の取り組み

「保健医療福祉概論」は、医療福祉の職業人を目指す学生として望ましい知識、態度(学習姿勢を含む)を育むことを目的として、両学科の1年生を対象に、専門家によるオンライン形式で開講しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、遠隔ならびに対面授業によって、本学の建学の理念、アカデミックライティング、自己分析講座、社会人基礎力養成講座、予防接種の理解、チーム医療、ボランティア活動、性感染症と避妊などのテーマで講義を行いました。SNSとの付き合い方、防犯と交通マナーの遵守、臓器移植、地球温暖化がテーマの回では、学園外から専門家をお招きしてお話を伺いました。学生たちは、この講義を通して、大学の理念を理解し、医療福祉の専門職としての基礎を学ぶことができました。(教務委員会 居村 貴子)



◇日本語に関する取り組み◇

短歌受賞のお知らせ

2019年度第25回「前田 純孝賞 学生短歌コンクール」(兵庫県新温泉町などが主催、選者は歌人の佐佐木 幸綱さん)に、「文章表現」受講の看護科の学生が応募し、5人が入選しました。受賞者とその作品は次の通りです。

憧れの看護師目指し頑張ると心に決めた桜の季節
選者賞 看護科2年 福本 理絵

髪をまとめ白衣を着ては実習へ資格はないが気分はナース
新温泉町長賞 看護科2年 三橋 可奈子

「みめたさん」呼ばれて自分と気づかない先生私目見田なんです
新温泉町長賞 看護科2年 目見田 ゆき



「行ってきます」わかってるのに口にする鏡の中の私に向かって
新温泉町教育長賞 看護科2年 泉 結衣奈

尾道の坂知り尽くす猫たちが千光寺までの道案内だ
神戸新聞社賞 看護科2年 村上 沙耶



協会報告

令和2年度 川崎医療短期大学 協会役員

会長 浅野 宏之(看護科3年)
副会長 藤原 康恵(看護科2年)
副会長 椿原 彰夫(川崎医療短期大学学長)
監事 川崎 幸生(医療介護福祉科2年)
監事 山口 由紀(医療介護福祉科1年)
評議員 塩田 裕美(看護科1年) 他学内評議員7名

令和元年度収支決算書及び令和2年度収支予算書

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止という観点から、集会形式での総会の開催を中止し、送付した資料により審議が行われました。そこで、下表の令和元年度収支決算書及び令和2年度収支予算書が承認されました。これにより、今年度も学生の皆さんの学習、福利厚生、学生生活及び進路等に関する諸活動についての支援が行われます。

令和元年度 川崎医療短期大学協会収支決算書

一般会計		(円)	
収	入	支	出
会費	4,460,000	学生研修助成費	1,345,350
前年度繰越金	610,648	厚生福利費	420,762
雑収入	10	学生生活指導費	946,750
		進路指導助成費	559,944
		渉外費	30,000
		事務費	205,977
		雑費	4,776
		予備費	10,500
		次年度繰越金	1,546,599
合計	5,070,658	合計	5,070,658

特別会計		(円)	
収	入	支	出
前年度繰越金	9,355,991	次年度繰越金	9,356,924
雑収入(預金金利)	933		
合計	9,356,924	合計	9,356,924

令和2年度 川崎医療短期大学協会収支予算書

一般会計		(円)	
収	入	支	出
会費	4,580,000	学生研修助成費	1,700,000
前年度繰越金	1,546,599	厚生福利費	537,000
		学生生活指導費	971,000
		進路指導助成費	660,000
		渉外費	100,000
		事務費	200,000
		雑費	7,000
		予備費	1,951,599
合計	6,126,599	合計	6,126,599

特別会計		(円)	
収	入	支	出
前年度繰越金	9,356,924	太陽光発電の通常電源への切替工事費用	40,000
雑収入	900	次年度繰越金	9,317,824
合計	9,357,824	合計	9,357,824

※特別会計は、教育・実習のための施設設備及び学生のために特に必要なものを備えることを目的とした積立金です。

令和2年度 補助金・助成金一覧

研究代表者	看護科 准教授 掛屋 純子	令和元年度~令和4年度(円)	1,820,000
		令和2年度配分額(円)	520,000
名称	科学研究費助成事業 若手研究 『前立腺がん患者のService Gap尺度の開発と信頼性・妥当性の検討』		
研究代表者	医療介護福祉科 准教授 平口 鉄太郎	令和2年度(円)	150,000
名称	公益財団法人 ウエスコ学術振興財団 研究費助成 『老化による筋力低下に対するステロイド類と基礎運動量の影響の行動学的解析』		

2019年度 国家試験結果と進路状況

3月末に2019年度国家試験合格発表があり、結果は下表のとおりでした。看護科は過去3カ年では最高の好成績をおさめ、医療介護福祉科は3年連続100%合格を達成しました。

就職については、就職希望者126名全員が就職し、就職率は100%、進学については、岡山大学等の国公立大学へ3名、川崎医療福祉大学へ1名、その他(助産師・保健師養成校)2名でした。

各学科の最新情報は、本学ホームページをご覧ください。

	看護科	医療介護福祉科	放射線技術科
試験	看護師	介護福祉士	診療放射線技師
試験日	2月16日	1月26日	2月20日
合格発表日	3月19日	3月25日	3月23日
全国平均(%)	89.2	69.9	82.3
合格率(%)	99.1	100	77.8

新任教職員紹介

新しく本学の仲間になった教職員の方々を紹介します。



松岡 孝 医療介護福祉科 特任教授

青春時代、今しか見えない、今しか気づかない、今しか学べない、今しか遊べない、今しか行動できないことがあります。人は夢に向かい悩み行動して、それが成就しても破れても若い時はその度に成長できるのです。好奇心を持ってしっかり学び、遊び、悩み、行動し、若き日の良い思い出になるよう青春の貴重な1日1日を大切に過ごしてください。



藤井 弓加 看護科 講師

助産師としての経験を生かし、講義や臨地実習でいろいろなことを皆さんに伝えていきたいと思います。わからないことや困ったことなどあれば、一緒に考えていきましょう。



高橋 洋子 看護科 助教

看護師として病院や訪問看護ステーションに勤務した経験を生かし、皆さんと共に看護について語りたと思います。臨地実習では老年看護学を担当します。看護とは何かを考え、学んでいきましょう。



吉井 一恵 看護科 助教

今までの看護師としての経験や学びを生かし、学生の皆さんが目指すそれぞれの将来像に向かって進めるよう、応援したいと思います。共に成長していきましょう。



岸本 英里 医療介護福祉科 助教

介護福祉士としての通所介護の経験を生かし、介護の楽しさや奥深さなど、様々なことを皆さんに伝えていきたいと思います。相手のことを想い、寄り添うことのできる介護福祉士を目指して、共に考え、共に成長していきましょう。



藤井 恵子 事務室 事務員

2月に大学事務局総務課(郵便仕分け室)から異動してまいりました。微力ではありますが、学生・教職員の皆様の方力になれるように頑張っております。どうぞよろしくお願いいたします。

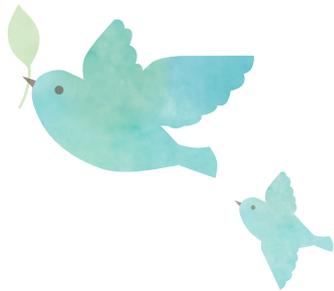


森山 明美 このはな寮 管理人

昨年11月まで本学の事務室に勤務しておりましたが、12月にこちらに参りました。事務室での経験を生かし、少しでもお役に立てればと思います。学生の皆さんの頼れる存在になれるように頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

主要行事予定 (9月～3月)

9月	22日	2校合同オープンキャンパス
	24日	前期末卒業証書・学位記授与式
	25日	後期授業開始
10月	10日	総合型選抜入試二次審査
	27日	医療介護福祉科 介護実習開始式
11月	7日	看護科 繼灯式
	14日	学校推薦型選抜入試 (専願)
12月	13日	学校推薦型選抜入試 (併願) (~14)
	26日	冬期休業 (~1/4)
1月	20日	川崎学園防災の日
	28日	後期定期試験 (最高学年 ~29)
	31日	第33回介護福祉士国家試験
2月	1日	一般選抜前期入試 (~2)
	3日	後期定期試験 (~15)
	14日	第110回看護師国家試験
	17日	在学生健康診断
3月	10日	一般選抜後期入試
	15日	卒業証書・学位記授与式
	28日	3校合同オープンキャンパス



川崎医療短期大学広報誌 「若きいのち」(107号)

令和2年9月発行

編集発行：広報誌作成ワーキンググループ

熊野 一郎 (看護科・責任者)
見尾 久美恵 (看護科)
三宅 美智子 (医療介護福祉科)
石原 律子 (事務室・書記)

写真協力：二葉写真館

印刷：友野印刷株式会社

皆さんからのご意見・ご要望をお待ちしております。

〒701-0194 倉敷市松島316

川崎医療短期大学 広報誌作成ワーキンググループ

電話：086-464-1032 (事務室)

Eメール：kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp

ホームページ <https://j.kawasaki-m.ac.jp>

既刊の「若きいのち」は、本学ホームページでご覧いただけます。

地球温暖化対策ワーキンググループだより NO. 46

川崎エコアクション

プラスチックごみ
削減でエコライフ



レジ袋有料化をきっかけに、プラスチックごみの問題について、皆さんも考えてみたのではないのでしょうか。日々の買い物でマイバッグを持参して、「レジ袋はいりません」「レジ袋は結構です」と辞退することが当たり前になりつつあります。一人ひとりのライフスタイルに変化が生じてきており、エコバッグは、今や生活必需品になってきました。機能性を兼ね備えたお洒落なエコバッグも市販されています。

医療介護福祉科では、2年生がリバーシブル三角エコバッグを手作りしています。私も、学生時代に生活支援の授業で作ったエコバッグを今でも愛用しています。布2枚を使っていて、自分の好みの大きさやデザインで簡単に作ることができます。皆さんも作ってみてはいかがでしょうか。手軽に取り組める小さなエコアクションが、地球のより良い環境につながります。(医療介護福祉科 岸本 英里)



OPEN CAMPUS 2020

オープンキャンパス2020 開催スケジュール

●川崎医療短期大学オープンキャンパス

川崎学園祭の中止に伴い、10月のオープンキャンパスは中止となりました。

●合同オープンキャンパス (受付：川崎医療福祉大学にて)

川崎医療短期大学・川崎医療福祉大学の2校合同開催

9/22(火) 午前の部 9:30~12:00
午後の部 13:00~15:30

事前申込制
(今回の申込期間は終了しました)

●合同オープンキャンパス (受付：川崎医療福祉大学にて)

川崎医療短期大学・川崎医療福祉大学・川崎リハビリテーション学院の3校合同開催

2021年 **3/28(日)** 13:00~16:00 (予定)

なお、学校見学に関するお問い合わせは、事務室までご連絡ください。
【TEL】086-464-1033(受付・平日9:00~16:00、土曜9:00~11:30)

新型コロナウイルス感染の影響によりオープンキャンパス他の予定が変更となる場合がありますので、事前にホームページ等でご確認ください。 <https://j.kawasaki-m.ac.jp/>

編集後記

前号発行時にすでに深刻な影響を及ぼしていた新型コロナウイルス感染症ですが、その後の状況はますます悪化していきました。

本学では厳格な感染対策を実施して新学期を開始しました。しかし、緊急事態宣言の対象が全国に拡大したため、4月18日からは出校停止となり遠隔授業へ移行しました。その後5月25日に全国の緊急事態宣言が解除されたことを受け、実技など一部の科目における対面指導が再開されました。その間、学生たちはさまざまな不安を抱えながらも、厳格な感染対策をしつつ、通常とは異なった講義・実習に取り組んでまいりました。

本号の特集では、そのような大学・学科・学生の対応をまとめました。限られた紙面ではありますが、学生が懸命に前へ進みつづけている姿を感じていただければ幸いです。コロナウイルスとの関わりは今後も続きます。医療・福祉を担う我々は、通常よりも何倍も厳重な感染対策を実施し、これからの「新しい生活様式」の実践にも役立てていきたいと思っております。

最後になりましたが、ご多忙中にもかかわらずこころよく誌面作成にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。
(看護科 熊野 一郎)